

栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年10月24日（月）16：00～17：26

場所：東山会館

出席者：8人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 第7次総合計画の策定について
- (2) 自由懇談

4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：北広島のボールパークの関係で栗山町への良い影響はないのか。ニュースで岩見沢から栗沢を通してボールパークへ行く路線バスが出ていると聞いたが、栗山から行くバスなどあるのか。

経営企画課主幹：ボールパークの関係については分科会というものが立ち上がっていて、そこに栗山町も参画しています。食、周遊、スポーツ、交通の分科会があり、交通の分科会については市町村が入っていない交通事業者の分科会となっています。3つの分科会には栗山町も入ってしまして、今コロナの関係もありなかなか分科会の事業もできていませんでしたが、来年3月にはボールパークオープンしますので、そこに向けて北広島市が中心となり、色々な事業展開をしていきたいということです。具体的に動き出しそうなのが周遊の分科会で、自転車を使った周遊サイクリングイベントなどを考えています。そういったところで具体的に動いていきたいと思っています。それから北広島まで行く手段ですが、交通分科会の方で事業者の関係もあるので色々と議論されていくと思いますが、栗山町としても何か出来ることを考えていきたいと思っています。

町長：今ボールパークの連携協議会に17自治体が入っていて、そこを優先して来年度応援

大使が栗山で2名決定している。応援大使が栗山に来ていただけることになるので楽しみしていただければと思います。4年前には栗山町の子供たちに野球教室などいろんなイベントに参加していただきました。それから嬉しいニュースですが、11月9日のワールドベースボールクラシック前哨戦で栗山みのり太鼓が披露する。栗山監督との関係もあり、ぜひ子供たちをと招待してくれた経緯があるようです。栗山の子供たちにとっては夢の舞台で自分たちの太鼓を披露するすごく良い機会だなと思っています。

教育長：日ハムとの関係ですと、全野球少年団、中学校、高校、大学など野球に携わる全チームが入っている協議会があります。日ハムからも出向で1名社員の方が入っています。ボールパークが終わった後、そこの関係もでてくると思います。現在、女子野球については各プロ野球球団がスポンサーになるなどかなり増えてきている。全道に今4チームありますが、これ以上増やせない状況になっています。その後は大学や社会人リーグに進むことになりますが、今は選手の取り合いの状況になっていまして、本州、特に関西から北海道の中学生へのスカウトが入ってきています。そこと競合していかなければならない。栗山は公立高校のため他の私立高校とどう競い合っていくかという所をこれから注目の的としていただければ嬉しく思います。

町民：ここの地域はへき地であり、一番望んでいるのは救急医療。何かあった時に一時的に手当てができて、その後に専門的な所の日赤病院などへ移してもらうのが理想だと思う。そこが充実するとここの地域では非常に助かる。日赤までは急いでも20～30分かかる。救急車を呼んでも往復で1時間弱かかり、脳卒中や心臓発作などを起こすと手遅れになる。そういうことが起こらないように自ら気を付けているが、心臓発作の対応として一時的なAEDが近くにあればと思う。年に1、2回しか使わない会館に置いても意味がないので、各家庭で必要とする場所に自ら購入してでも設置することが一番良いが、高価な物なのでそういった購入に対しての助成があれば安心につながると思う。この家庭ではAED設置していると公表することができれば、隣近所での助け合いができる可能性もあると思う。助成があり、AEDを設置することで一命をとりとめられる可能性はあるので、需要がどれくらいあるかはわかりませんが、そういった形もご検討いただければと思います。

町長：救急医療の関係で、日赤病院は救急告示病院ということで指定をいただいている。一時的にそこで診て、状況に応じて救急搬送することになります。日赤病院には地域の基幹病院としてこれからもお願いしたいという申し入れをしています。日赤としての理念と一致する部分でありますので、そこは継続してやっていただけるように話をいただいています。また、新聞にも掲載されていましたが脳卒中患者を救急病院へ迎えに行って専門病院まで搬送するにはかなりの時間がかかります。そこで先日、札幌清田にある美しが丘神経外科病院とストロークカー運用協定を結び、向こうの病院からストロークカーで医者や看護師が乗り込み、こちらからも救急車で行き、途中で合流してそこから診察・治療が始まり、病院につく頃には次の処置段階に進めるというような協定を結びました。脳卒

中の関係も道が開かれたということで感謝している。そういったところの充実も図っていきたい。AEDの関係は今ご提言がありましたので検討させていただきたいと思います。

教育総括：AEDについては、個々で購入すると1台20～30万円。需要がありまとめて購入する方法で、台数が多ければ多いほど安くなる。私が福祉課にいたときで1台9万円程度だった。ただし、機械だけがあっても使用方法などを理解しないといけいないので、そういった使用方法などの講習会についても町や自治会をはじめ町民の方の協力をいただきながら一緒にやっていかなければいけないと考えます。AEDの持つ方、使い方のわかる方が増えていけば、1人でも2人でも救えるようになると思います。

町民：父は高齢ですが今はまだ運転できるので自分で病院に通っているが、今後免許返納し運転ができなくなる。夏場は忙しいので送迎している暇がない。今後、病院に連れて行ってくれるようなバスが欲しい。家族が忙しくて連れて行けないことがあっても、そういったものがあれば助かります。円山地域など高齢者だけの家庭もあると思いますし、連れて行ってくれる方がいなければ日赤に行きたくても行けない。長沼の病院は家まで送迎してくれて便利だと思うので、栗山の病院でもそういったシステムがあればと思う。

町長：日赤病院ともこれから協議していききたいと思います。病院経営としても重要なことであり必要になってくると思います。今は町営バスに乗って来ているけれども、そのうちバスにも乗れなくなる場合は病院にも行けず非常に不安だという話も聞いている。そういった方々には例えばオンライン診療というものを利用して診察する方法もあります。それには使う方が簡単に使えるような形にしなければいけない。それと併せてやっていかなければならないのが訪問診療。今、由仁の病院の先生が栗山南部の方を回っていただいていることもありますので、これから日赤病院と協議してそういった所に力を入れていくことが必要だと思います。日赤病院の改築を契機に、町民の皆さんがより安心して医療が受けられるシステムを作っていきたいと思います。

町民：農業災害対策基金の窓口は農業振興公社で進めていくのか。

町長：現在、農業振興公社と協議中ですが、町として基金制度を設けていくのか、公社の事業に組み込んでいくのか、皆さんに使い勝手の良いような制度にしていきたい。窓口についても併せて検討していきたい。小規模な災害については今もあり、農業振興公社が窓口となって対応している。近年の異常気象により警報級にならない注意報の雨でも長い時間降り続いていくこともあるので、災害への備え、町としても今後の災害対応も改めて検討していかなければならないと考えています。